

# Mamiya Gallery

Vol.  
**13**  
2007



### 総評

MCCコンテストも14回目を迎えました。今回の応募の特徴としては広角から望遠までレンズのバリエーションが増えて、遠近感描写などレンズの表現効果を生かした作品が目立った事です。

中判カメラではズームレンズの種類は限られるので自然と体を動かしてフレミングをすることになりますが、それがレンズをうまく使いこなす結果につながっているのではないのでしょうか。しかし、レンズや足場の都合でどうしても希望どおりのフレミングができなかったというケースもあると思います。

そんな場合には、プリントをする時もう一度撮影する気持ちになって画面を見直し、必要ならトリミングをすることも考えて下さい。トリミングによってイメージが大きく変わる写真も少なくありません。中判カメラは画面の面積が大きいので少しくらいのトリミングは許容範囲です。作品がより良くなるのでしたら応募の前にトリミングという選択股も考えてみる事をお勧めします。

日本写真家協会会員 原 弘男





金賞

『赤い旋律』

小野 望(神奈川)

自然がつくりだす造形には人智を超えた不思議な美しさがあります。この神秘的な造形美を、フルパノラマ、超広角レンズ、そして縦位置撮影というアイデアを生かし技術で見事に昇華させた作品です。

マミヤ7 N43mmF4.5L 122 4秒 E100VS



銀賞

『秋とあそぶ』

住 昌広(岐阜)

子供達の表情としぐさをとても可愛らしく捉えていて、楽しさがいっぱいの写真です。シャッターチャンスが良くドラマチックな仕上がりは、まるで映画のワンシーンを見ているような気がします。

645AFD AF35mmF3.5 f11 1/20秒 RVP100



銀賞

『残照の針峰群』

小田 薫(東京)

構図がしっかりと安定感があり、露出、ピント共に申し分ありません。なによりも残照をとらえたそのタイミングの良さが光っています。速射性に優れたマミヤ7の真骨頂を發揮した作品といえましょう。

マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L f8 オート RVP100 SL



銅賞

『夜明けの葦原』

中田 友一(栃木)

晩秋のこの時期は、空気が澄んでいて朝晩はちょっと肌寒さを感じます。そんな季節感が朝焼けのイメージを通してうまく表現されていて、どこかしら懐かしさを感じさせる作品です。

RZ67プロ Z360mmF6 f45 1秒 RVP100 ハーフND



銅賞

『パールのテン場』

太田 秀男(長野)

色とりどりのテントが、前衛芸術のオブジェのよう  
に見えてとても面白く感じました。雪渓からの  
冷気が霧となって流れ、夏山の朝のひんやりとし  
た空気感がよく表現されています。

RB67プロS KL90mmF3.5L f11 1秒 RVP100



コダック賞  
『天空を翔る』  
荒川 信利(埼玉)

飛行機雲を生かして秋の空の高さを表現しているところに巧さを感じました。PLの効果で、空の青や山肌、お釜の水の色が鮮やかに描写されています。そのせいか全体にシャープ感がありクリアな作品に仕上がりました。  
645AFD AF35mmF3.5 f22 オート -0.7EV補正 E100VS PL



入選  
『静寂の時』  
行川 征子(埼玉)

秋の高原の何げない景色を、広角レンズの遠近感描写を生かして静かな味わいのある作品にまとめています。手前の枯れ葉はどうしても目立つところなのでもう少し整理して撮影できたらさらに良かったでしょう。  
645AFD AF35mmF3.5 f16 1秒 FortiaSP



入選  
『厳冬の朝』  
山崎 泰(栃木)

太陽の配置とシャッターを切るタイミングが良く、光の当たった霧氷が宝石のようにキラキラと輝いて大変きれいです。広角レンズで空を多く入れたことにより彩りに変化が付き好ましい作品となりました。  
RB67プロSD C50mmF4.5 f32 1/2秒 E100VS



入選  
『秋 彩』

井澤 信夫(埼玉)

白樺の幹を手前に大きく入れた構図にしたことで視線が自然に紅葉に誘導され、紅葉の美しさが一段と映えて見えます。やや逆光ぎみの光で色が鮮やかに表現され、立体感も出ています。

645プロTL C150mmF3.5N f22 1/8秒 RVP



入選  
『夏 終』

高崎 信夫(愛知)

夏の草原のひとコマがハイキーな露出で爽やかに表現されています。望遠レンズで絞りを開け背景がきれいにボケていますが、カメラ位置を下げるとさらにアウトフォーカスの部分が多くなりグラデーションも出てくると思います。

645プロTL A200mmF2.8 APO f2.8 オート RVP

入選  
『青い棚田』

佐藤 進(東京)

この場所は霧によって様々に表情を変えることで人気の高い撮影ポイントです。自然条件をうまく捉えることがコツですが、この作品は色温度の影響でしょうか、霧が青いパールのようにたなびいて不思議な幻想感が出ています。

645プロTL ULD C105-210mmF4.5 f16 オート RVP100



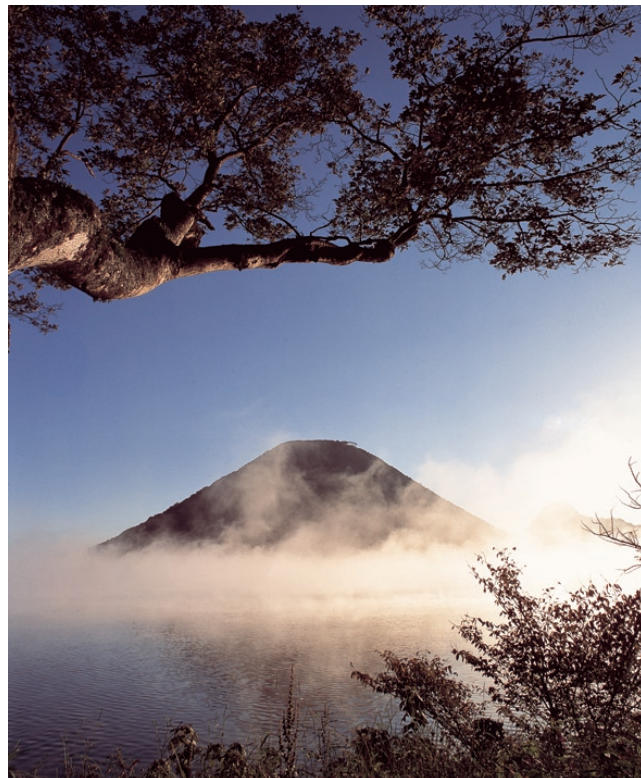


入選  
『渓谷のまあい〜るい緑』

萩野 信典(神奈川県)

滝の流れを入れずに植物を中心として、ねらいを絞ったことが良かったと思います。こうした被写体では特に質感描写が重要になりますが、シャープに描写されているので質感表現に申し分ありません。

645AFD AF55-110mmF4.5 f16 オート -0.7EV補正  
E100VS UV



入選  
『陽光』

星野 勝彦(群馬)

榛名山がまるで雲海に浮かんでいるように見えてとても幻想的です。よいチャンスをとらえています。ただ手前の草などは入れない方がこの場合、イメージがより強くなるでしょう。

RB67プロS C50mmF4.5 f22 1/8秒 RDPⅢ SL



入選  
『雪解けの頃』

鈴木 洋一(新潟)

去年の冬は雪が多かった為、草木の春と雪解けに季節のズレがありました。この作品の新緑と残雪の景色からも例年とは違うその様子がよくわかります。しっかりとパンフォーカスにしてあり、アンダーな露出が効果的でした。

645AF AF80mmF2.8 f22 1/30秒 RVP100

入選  
『山小屋明り』

前田 吉之助(東京)

長時間露光で登山者の明かりがくっきりと出ています。この光景もすっかり夏の風物詩になりました。街の灯が空に反射し夜空がグリーンに表現されています。このグリーンは空気が澄んでいると弱く、チリや水蒸気が多いと強く出ます。気象条件を味方につけた作品です。  
マミヤプレス 150mmF5.6 f11 120分 E100VS UV



入選  
『悠久の森』

飯塚 光男(東京)

年輪を重ねてきた老杉のフォルムの面白さが強調されよく出ています。ただ、悠久の森というイメージからするともう少し鬱蒼とした雰囲気があっても良かったかなと思いました。

RZ67プロII Z50mmF4.5W f32 4秒 RVP



加賀ハイテック株式会社から協賛いただき、今回からコダック賞が追加されました。

MCC Photo Contest 15

写真の醍醐味、多彩な個性の競演……

それがMCCフォトコンテスト。

第15回の応募期間は2007年8月30日(木)です。

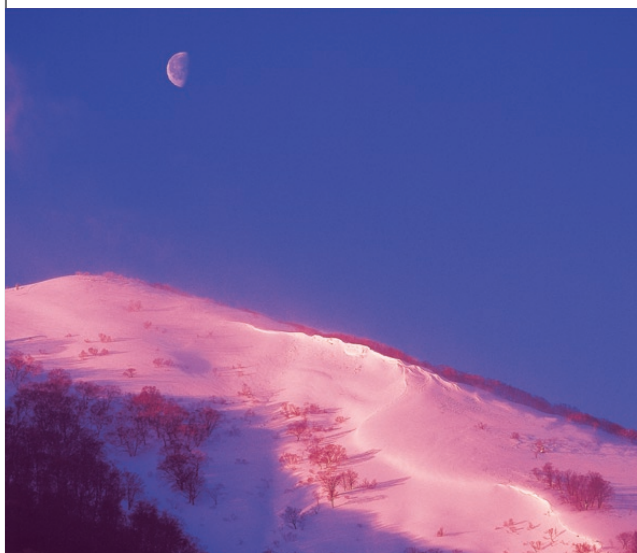
写真テーマは自由です。ふるってご応募下さい。

金賞

『一瞬の晴間』

生頼 弘(奈良)

なかなか晴れない条件下において、雪雲の間をぬって光芒が見られた瞬間に樹氷の延長線上に太陽を配しタイムリーに撮影された、まさにタイトルどおりの作品です。広角レンズを使用し樹氷の大きさや遠近感を出し、この場所の風景の大きさを見事に表現していると思います。  
645AFD AF35mmF3.5 f22 オート+1.0EV補正 RVP100



銀賞

『輝く稜線』

佐藤 進(東京)

朝焼けの八甲田山・雫岳の雪庇に陽が強く当たっている所をポイントにして月を配した構図が大胆に感じました。青空も非常に色が良く、応募されたプリントも綺麗に仕上がっていました。ブナの林に樹氷もしくは霧氷がついていたら尚良くなったでしょう。

645AFD AF APO300mmF4.5IF f8 オート-0.7EV補正 RVP100

銅賞

『紅の刻』

飯塚 光男(東京)

このような状態になったのはわずか一分前後だったと思いますが、雪雲の合間に夕日が差し込んだ瞬間を狙った写真です。風が非常に強くブリザードの中でその雪煙が夕日にうっすら染まっているところが見事です。

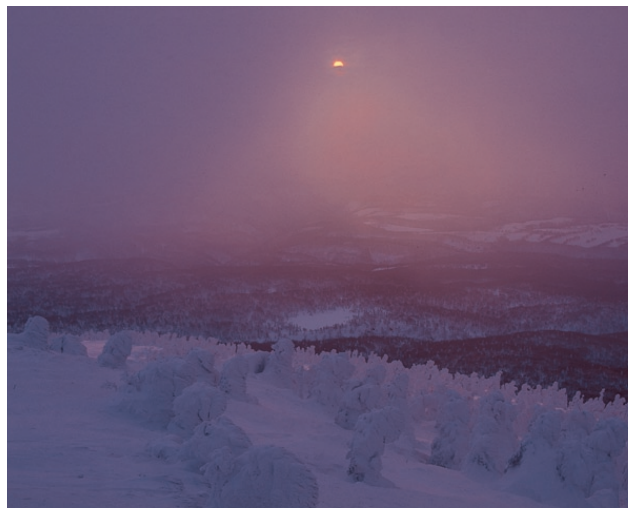
RZ67プロII APOセコールZ250mmF4.5 f45 1秒 RVP100



銅賞 『烈風一過』 井川 クキ子(東京)

いかにも山岳写真らしい写真といえます。樹氷のかたに八甲田山を配し、雪雲が猛烈な速度で過ぎ去っていく感じがよく表現されています。まさに烈風一過というタイトルその通りです。

646AFD AF35mmF3.5 f22 1/45秒 RVP100





JTB賞  
『氷根』

八坂 博孝(神奈川)

十和田湖のしぶき氷はその年によってつき方が違うのですが、この氷はかなりボリュームがあり木にまとわりついている感じがよく出ています。また遠方の山の影がうまく逆さに写りこんでいるところにも奥行き感が出てよかったです。

RB67プロSD ズームC100-200mmF5.2W f32 1/60秒  
RVP100 PL



入選  
『寒溪』

小田 薫(東京)

城ヶ倉大橋からの撮影ですが、閑散とした冬の静寂感がよく出ています。露出を切りつめ青白い感じを出した事も効を奏しています。沢の左上から右下への流れも静かな画面に動きが出ていてとても良いと思いました。

マミヤ7II N65mmF4L f16 オート+1/3EV補正 RVP100 SL



入選

『モンスター群』

行川 征子(埼玉)

画面手前のスムーズな雪原とその奥にそびえるモンスター群を的確に捉えています。この2つがとても対照的で、手前の滑らかな女性的なイメージと奥の荒々しい男性的なイメージの差が非常に面白く感じました。

645AFD AF35mmF3.5 f22 1/60秒 RVP100 PL



入選

『モンスターの八甲田』

岩澤 延恭(神奈川)

遠くにスキーヤーを小さく配している画面構成が気に入りました。中望遠レンズを使用していますが、モンスターの大きさが、手前が大きく奥が小さく見えている為この八甲田山の樹木の広大なスケール感をうまく表現できていると思いました。

RB67プロSD ズームC100-200mmF5.2W  
f32 1/15秒 E100VS

入選

『風雪紋』

荒川 信利(埼玉)

太陽が高く昇った後の撮影ですが、シュカブラの日陰の部分、日向の部分のコントラストをよく表現しているところが素晴らしかったです。奥行きも出て縦位置構図にした事も正解でしたが欲を言えば画面手前のピントがもう少しあれば良かったと思います。

マミヤ7II N80mmF4L  
f8 オート+1/3EV補正 E100VS



## 私の撮影スタイル

北極圏の夏は白夜の季節。澄んだ空気の中で、真夜中の太陽は景色を素敵に色に染め上げてゆく。私はカメラバックの中の35ミリのカメラをテントに残すとミディアムフォーマットのマミヤを新たにバックに詰め込み、キャンプを出た。この空気の中でがっかりとブローニーで収めておきたい風景があった。フォーマットを幾ら大きくしてみたところで、広すぎる景色は納め切れるものではないのかもしれない、しかし、やはり35ミリとは比較にならない質感でフィルムに焼き付けられる画角を645は持っている。

極北の地で動物の姿を追い求める中、メインの機材はずっと35ミリだった。少しでも近づきアップで表情を狙う事、それが自分の中では荒野に生きている野生動物を表現する方法だった。が、中判を使うようになってから少しづつその思いが変わって来た。風景の中に動物をその景色の一部として入れ込むのだ。大きな景色の中にポツンと点景で動物がいる。その時、風景と動物は一体となる。

もちろんアップでの撮影でもその画質は35ミリを遥かに上回る。同じ焦点距離のレンズを使っても中判では倍近く被写体に近づかなければならぬ。その事がまた新たな発見をもたらしてくれた。より近づこうとする緊張感。しっかりと撮影しようと思う感覚。近づくとこの事はいかなる被写体においても最も必要な事かもしれない。645はそこがいい。新しい感覚を教えてくれ、忘れていた感覚を思い出させてくれた。動物の撮影には適さないと思っていた中判にも実は意外性があったのだ。

撮影はいつも荒野でのキャンプ生活。1度撮影に入ると一カ所で、2週間からひと月はテントで暮らすことが多い。そんな時、キャンプ道具や食料、燃料、撮影機材の重量は80キロにも及ぶ。少しでも荷物を減らしベースに入りたいが、35ミリのレンズを削っても中判は荷物に入れるようになった。645の機材が入ったケースはいつも私のベースキャンプに運ばれている。そして、心を動かされる光景の中ではいつも、カメラバックにマミヤを詰め込みテントを出ることが多くなった。



1966年長野県生まれ  
北海道酪農学園大学卒業。学生時代に訪ねた厳冬の  
アラスカに魅せられて以来、毎年通い続けて  
18年になる。四季を通じて年間100日余を荒野で  
過ごす。アラスカ各地を旅しながら、北極の動物  
たちや原始的な北極の大自然をテーマにその姿を  
写真に収めている。作品は、「ニュートン」「Nature」  
や、カメラ雑誌などに発表。マミヤ645AFDIIの  
カタログ写真を手掛ける。

### 写真展

2003年  
「ALASKA HEART LAND — 荒野に生きる仲間たちの  
メッセージ」ドイフォトギャラリー、府中郷土  
の森博物館、八王子ゆやけこやけふれあいの里  
2005年  
「アラスカ—原始の詩—大地に生きる野生動物た  
ちの鼓動」富山県ミュージックおかカメラ館  
2006年  
「アラスカ—原始の詩—大地に生きる野生動物た  
ちの鼓動」アイデムフォトギャラリー・シリウス  
2007年  
園原 徹写真展「アラスカ—北の王国」コニカミ  
フルタプラザ企画展～地球の素顔、この自然が永  
遠に続くために～



マミヤ645AFD II AF 80mmF2.8



マミヤ645AFD II AF ULD210mmF4 IF



マミヤ645AFD II AF APO300mmF4.5 IF

## デジタル時代の銀塩フィルム

写真と言うとデジタルのようにになっている世の中です。マミヤでも2200万画素中判一眼レフカメラマミヤZDやZDbackを発売していますが、中判デジタルカメラはまだまだ高価で、中判カメラではフィルムが主流です。デジタルカメラと銀塩フィルムそれぞれの良いところを両立させる為にもフィルムについて考えてみましょう。

## フィルムの歴史

ブローニーサイズのロールフィルムとしてイーストマンコダックにより1901年に作られたモノクロ120フィルムは今でも同じ規格で作られています。現在でもマミヤのカメラを始め中判カメラのほとんどが120フィルムと、裏紙が無い、2倍の撮影が出来る220フィルムが一般的です。

カラーフィルムは1935年の『コダクローム』に始まり、日本のカラーフィルムは小西六が『さくら天然色フィルム』を1940年に初めて発売しました。カラーフィルムは、最初はポジフィルム(リバーサル)のスタートでしたが、1941年にアグファとコダックからネガフィルムが発売されました。時が経つにつれ感度が上がり、粒状性も良くなり、発色性も進歩して現在まで続いてきています。

銀塩フィルムは用途によりモノクロフィルム、ネガカラーフィルム、ポジカラーフィルムに分けることが出来ます。それぞれに感度の違いや、発色の違い等色々な特徴があります。

## フィルムの使い分け

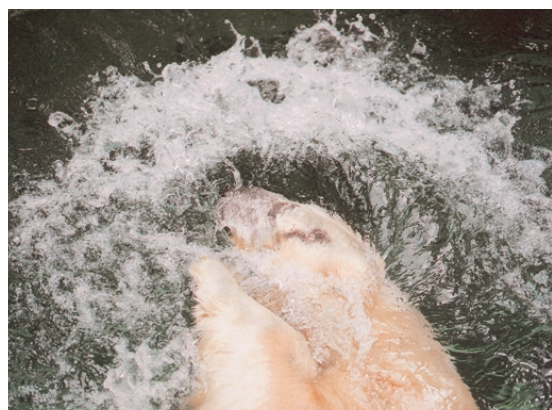
ネガフィルムはプリントを目的に作られたフィルムでグラデーションの豊かな、柔らかなプリントが作れます。ネガフィルムは露出の許容範囲が広く特にオーバー目にはプラス側に2絞り、マイナス側でも1絞り位のアドバンテージがあります。最近の露出系内蔵のカメラの場合露出による失敗はほとんどないと思いますが、シャドー部に露出を合わせる様にするとオーバー部分までカバー出来るのでほぼ間違いがありません。

色温度等による色のズレもプリント時に直す事が出来るので、撮り直しのきかない写真などにも扱いやすいフィルムと言えます。コントラストを強くしたくない人物写真、集合写真などにも向いているのがネガフィルムです。情報豊かな作品づくりにも適しています。ただベストな状態の写真を作るためにはネガでも目的に合わせた正確な露出で写真をとることが基本です。

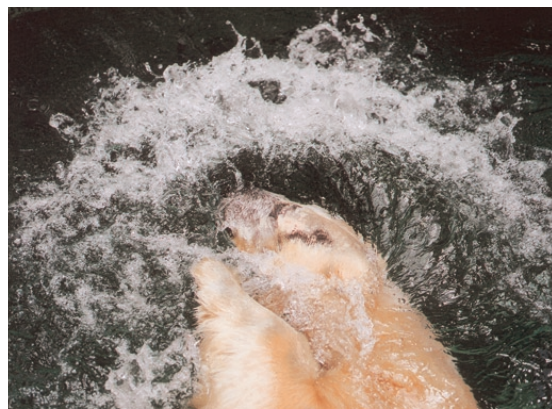
問題はプリントをする現像所やプリントをする人の考え方で仕上がりが大きく違う事にあります。機械任せのサービス版で良い状態に仕上げるのはなかなか難しいのですが、指示無しでサービス版ではポジのプリントと比べるとネガのプリントは濃度が低く色乗りが浅く感じます。

優しさやフラットさが狙いの人物写真などには都合が良いのですが、右の作例のように指示を出し、暗い部分はつぶれても濃度を上げると色乗りもよくインパクトの強い写真に仕上がります。

手焼きプリントなら覆い焼きや色補正も可能です。ちゃんとした狙いをもって指示が出来る様になれば、ネガフィルムは銀塩カメラの大きな戦力になります。



機械まかせプリント



濃度を上げプリント

サービス版の濃度を変えてプリントしています  
AF210mm F4 コダックポートラ 400VC-2



コントラストが強すぎる撮影条件では、ネガの柔らかさが好都合です。銀塩カメラでフィルムの選択は、作品を大きく左右します。

ポジでは手前の緑が暗くなりフラミンゴの羽の部分のハイライトが飛び気味です。レフやストロボの補助光を使わないのであれば露出をアンダー目にしてハイライトを生かすかオーバー目にしてシャドウの緑を生かすかの選択になります。ダイレクトプリントではさらにコントラストが強くなります。ポジは本来印刷に適したフィルムで印刷の段階で濃度や色を調整しています。

ネガからのプリントはフラミンゴのハイライトからシャドウまでなだらかな階調です。

ハイライトを生かすよう指示を出し、暗くなった緑の葉の部分は覆い焼きで色を出しています。



ポジよりプリント フジプロビア 100F



ネガプリント コダックポートラ 400VC-2

風景写真でコントラストの強いポジフィルムを使うと、空の微妙な表現がなくなり退屈な空間になってしまうことがあります。フィルムでもデジタルでも情報が残っていないと、どうしようもありません。

ポジやデジタルでは空の調子が出る様に露出を合わせます。アンダー目になった部分でも情報が残れば印刷時やプリント時に覆い焼き事でバランスを取る事も出来ます。

風景写真の場合空の情報は重要です。この様な場合ポジフィルムでは空がオーバー目にならない-0.5~-1EVの露出補正が良いかと思います。ここでは1/2EVでシフトしていますがマミヤ645AFDIIではより細かい1/3EVのステップに変えることも可能で、オートブラケット機能も便利です。



AF80mm F2

適性の露出についてはカメラの露出計に問題があるわけではありません。カメラの露出計にはどのような絵が写っているのかは判断することは出来ません。あくまで光の量をはかりバランスのよい露出を適正露出としているのです。補正無しでも納得のいく露出だと思えますが、空の調子を出すにはマイナス補正が必要です。反対に空をバックにした逆光の女性写真等の人物はアンダー目になりやすいのでプラス補正をすることが多くあります。

ポジフィルムでは被写体や撮影内容によりカメラの決めてくれた露出を参考に細かな補正が必要です。乱暴な言い方ですがポジはアンダー目に反対にネガではオーバー目にする、情報が残ってプリント時に調子を出すことは出来ます。

この様にネガとポジでは露出に対する考え方は違います。撮影時ポジフィルムでは適正露出の前後の露出で撮る事も多くあります。タングステンフィルムや、デーライトフィルムの使い分けや式温度等もフィルターで調整が必要になります。ネガフィルムでは微妙な露出補正やフィルター補正は余り意味がありません。プリント時に指定しなくてもはいけませんが細かな式温度調整などもプリント時に補正することが出来ます。

フラッドランプ照明と蛍光灯のミックス光源下で撮影



5200Kの色温度設定



3200Kの色温度設定



デーライトネガフィルムで機械任せプリント

## 中判カメラならではのブローニーISO400フィルムとの組み合わせ

大判4×5カメラのカラーシートフィルムのISO感度は50や100、160等で400のフィルムはありません。基本的には感度が低いほど粒状性が細かく、感度が高くなると粒状性が荒くなりますが、感度が高い事は、深い絞りや速いシャッタースピードが使える事になります。三脚を使用していても、木の葉のブレ等を防ぐ為に少しでも速いシャッターが切りたい場合や、手持ちで撮影する場合ブレを防ぐ効果があります。

35ミリカメラに比べてフィルムサイズの大きいブローニーフィルムではプリント時の拡大率が低くなり粒状性も35ミリカメラの様に気になり

ません。4×5や35ミリのフィルムカメラでは得られない中判カメラの画質とブローニー400フィルムの組み合わせは魅力です。現在ブローニーのISO400ポジフィルムはフジのプロビア400Xのみとなりましたが、このフィルムはいままでISO400の中でも鮮やかで適度にコントラストもあり、粒状性もRMS11と優れています。

低感度の鮮やかなフィルムだけではなく風景写真でもプロビア400Xと中判カメラの組み合わせを試してみてください。表現の幅が広がります。



プロビア400X



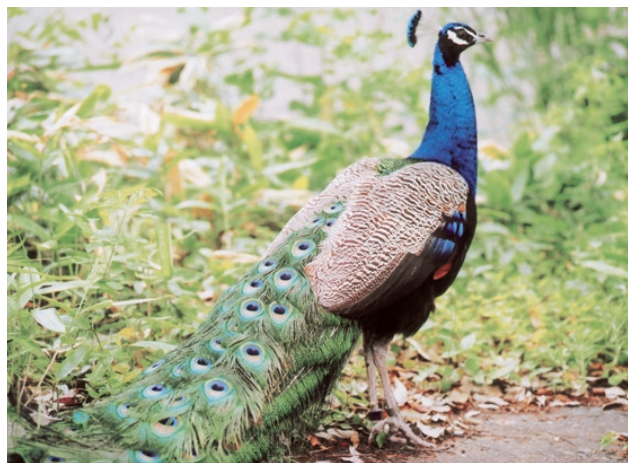
プロビア100F

## 鮮やかな発色をするブローニーISO400ネガカラー

ポジフィルムは風景写真を中心に鮮やかなフィルムが好まれている様ですが、ネガフィルムにも鮮やかなタイプがあることは知らない人が多い様です。

コダックのネガフィルム、ポートル400には通常タイプのポートル

400NCと鮮やかな発色のポートル400VCがあります。この様にネガフィルムにも色々な種類があります。ネガフィルムでも派手な色彩を好むのならこのような鮮やかなフィルムを使う手段もあります。



ポートル400VC

## 増感現象

ポジフィルムでもネガフィルムでも+2絞り位までの増感現象が可能で、ISO100のフィルムは200や400に増感することが出来ます。

ISO400のフィルムであれば800や1600の感度で使うことが出来るので暗い場所や速いシャッタースピードで撮りたい場合、手持ちでの撮影など領域が広がります。コントラストが強くなり粒状性が荒れてくる傾向にはなりますが、自分好みのフィルムや設定、良いラボを見つけることは銀塩カメラでは重要なことです。

プロラボはもちろん街の写真店でも対応してくれるお店もあります。現像時に増感の指示を忘れずに。

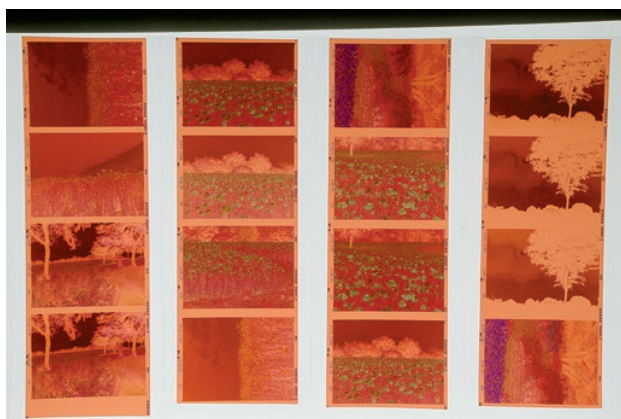


レフレックス500mm F8

## フィルムの整理

デジタルカメラの撮影が一般的になってきましたが、パソコンによるプリント処理にはまだ難しいと感じている人が多い様です。フィルムやプリントは何年間もメーカーが研究して開発し続けてきたものです。ポジフィルムやプリントの良いものを参考にすることで、自分で楽しむデジタルプリントの良いサンプルになります。

現像をしたポジやネガフィルムはライトボックス上でデジタルカメラで複写するかスキャナーでパソコンに読み込み(ネガはトーンカーブを反転させてオレンジを引くとポジと同じになります)、この様なベタ焼き状態にしてパソコン上で管理しています。以前はネガを探す場合大変でしたがこの様に整理すると便利です。



ネガをスキャンしトーンカーブで反転させオレンジを引く

写真の講習会等ではポジで写真の判断をして終わっている所が多い様ですが、ポジの段階では作品ではありません。プリントとして初めて作品になります。

大きくプリントすることで中判カメラの描写力が良く分かります。ネガフィルムの柔らかさやポジフィルムのコントラストの強さ鮮やかさなど特長を生かす作品作りを目指しましょう。

ネガとポジのプリント比較は色々な条件で変わります。紙の種類や光沢感、好みもありますが色々試してみたいかたがたはどうか。ネガはプリント指定の難しさ等もありますが、ネガからのプリントはポジからのダイレクトプリントに比べ価格が1/2 ぐらいのお店もあります。

同じ条件でいろいろなフィルムを比較検討するためにはホルダー交換式のカメラが理想です。マミヤ645AFD II やRZ II はホルダー交換システムにより、ポジ、ネガフィルムやデジタルバックまで使えるシステムカメラです。



## 空を動かそう! —— 星の夜のヒマラヤ



マミヤ645AFD 45mmF2.8 絞りf2.8 ※(開放)にて約20分 MFで∞E100VSを2倍増感 三脚使用  
 (北斗七星の右下あたりがエベレスト。シャンボチェ標高3800mより 1月中旬の午後10時頃)  
 ※ 暗いレンズ、低感度フィルムだと明るい星しか写らない。寒冷な時はレンズに夜露がつかないように注意

今回はオートマチックな高機能を誇るマミヤカメラの、もう一面高性能なるマニュアルバージョンで華麗な夜空の世界に挑戦します。

さて、夜空撮影となるといかに高性能なシャッターといえども“開く”と“閉じる”だけでOK。しかもそれがやりやすいこと。これにはT(タイム)が最適。マミヤではこのモードはメカニカルなので気になる長時間露出でも電池の消耗の心配なしなのです。

レンズは空が広く写るワイド系、∞がキチッと決まる明るめのレンズ・フィルムはISO100~400が適当。もちろん三脚使用で距離はMF無限大。

やり方は作例の645AFDでなら露出モードでダイヤルをTに合せ、あとは絞りを開放にセットする。もしあたりが暗かったらバックライトボタンを押すと液晶部分が点灯します。これは親切便利。そしてシャッターを押すと開きます。閉じるときは露出モードダイヤルをXに回す。

シャッター開閉時にカメラブレの心配があるので、シャッターが開く前にレンズ前に手などをかざして、開いてからそーっと手を外す。閉めるときもやはりあらかじめレンズ前をカバーしてからダイヤルを動かし、シャッターを閉じればリモートスイッチなしでもカメラブレの心配はなし。

作例では雪山がカメラ背後からの半月に照らされていました。月光はあまり強すぎると雰囲気がよくなくなるので鎌月~半月位でカメラの視野外のこと。作例は20分位ですが時間をかければ軌跡はもっと長くなります。これはお好みで。

この写真のまんなかあたりに明るい星の一群がありますが北斗七星です。ふつうに撮るとかなり強い左曲りの弧になるので少々カメラアングルを右下がりにして“上に昇る”感じを出しました。このあたりかなり気の長い“動体予測”というわけ。

星にきれいな色が出ていますがこれは、星の光のエネルギーとフィルムの三原色表現の色感度が微妙に相反則でちがうため、カラーバランスの相異からついた色です。

※645AFD IIにはT(タイム)露光はございません。

MCCインフォメーション

## 新製品ニュース —— デジタルバックとレンズ2本を発売

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社では、有効画素数2130万画素48mm×36mmの大型CCDを搭載した、マミヤ645AFD II / 645AFD、マミヤRZ67PRO II Dに装着して使用するデジタルカメラバック『Mamiya ZD Back』と、645AFシリーズ/マミヤZD用交換レンズ、マミヤセコールズームAF75-150mmF4.5D、マミヤセコールAF28mmF4.5D Asphericalを発売しました。

有効画素数2130万画素プロ仕様デジタルバック

### Mamiya ZD Back

『Mamiya ZD Back』は、有効画素数2130万画素48mm×36mmのDALSA社製大型CCDを搭載したプロ仕様のデジタルバックです。弊社の中判フィルムカメラ645AFD II / マミヤ645AFD、マミヤ RZ67PRO II D(※)のフィルムホルダーのかわりに装着することにより、高画質デジタルカメラとしての使用が可能になります。

(※)RZ67PRO II Dに装着するには別売のデジタルバックアダプター-HX701が必要です。



#### 価格 オープンプライス

※ Mamiya ZD Back はカメラ店での販売取扱いがございません。  
クラブ員の方につきましてはクラブ事務局までお問い合わせ下さい。

#### 主な特徴

##### ■645AFD II / 645AFD、RZ67PRO II Dに装着可能

カメラとデジタルバックの相互通信の最適化を図ったマミヤ独自の通信プロトコル、MSCE(Mamiya Serial Communication for External) に対応したカメラボディに装着することで一体感のある操作感を実現しました。フォトグラファーのスタンダードカメラとして定評のある645AFD II / 645AFD、RZ67PRO II Dに装着できるため、お手持ちのカメラ、レンズやアクセサリー資産を有効に活用することができます。近日中には機械カメラであるRBシリーズに装着できるアダプターも予定しています。

##### ■14ビットA/D変換 12ビット記録

Mamiya ZD BackはCCDで受けた光の量(アナログ値)をデジタルデータに変換する作業を14ビットで行い、その後12ビットで記録しています。この為ハイライトからシャドウまでの滑らかな階調表現、被写体のディテールを十分に再現します。DALSA社と共同開発したASICにより、CCDからの出力データをリアルタイムで最適化処理することにより高速化を実現しました。

##### ■SD/CF対応のメモリーカード2スロット搭載

CFカード(コンパクトフラッシュカード)と、SDカードの両方に対応する汎用性の高い記録方式を採用しています。パソコンに接続しなくても単体で撮影できます。4GBのCFカードならRAWデータで約100カットの撮影が可能です。

##### ■フィルター交換システム

Mamiya ZD Backはフィルター交換システムを採用しています。撮影シーンに合わせてIRカットフィルター(標準装備品)とローパスフィルター(オプション品)を交換する事が可能です。

##### ■大判出力に適した理想的なアスペクト比

Mamiya ZD Backに採用されているCCDの縦横比率は3:4です。八つ切りサイズ以上の印画紙や、印刷、プリント用紙のA / B版も3:4の比率に近いためトリミングによる画素のロスが少なくなり2130万もの画素を最大限に活用できます。

## マミヤセコールズーム AF75-150mmF4.5D

マミヤセコールズームAF75-150mm F4.5Dレンズは画角50度~26度、35mm換算で47~93mmに相当する標準~中望遠レンズです。最短距離は1mと短く、ポートレート撮影から日常のスナップ、風景撮影まで使用できる汎用性の高い常用レンズです。

半身撮影から全身撮影までをカバーする焦点距離は特に写真館での肖像写真に高いパフォーマンスを発揮します。AF/MFの切り替えは距離リングの前後操作で行うことができます。また、ズーム全域で高いフード効果が得られる花形フードを採用しています。

#### 【主な仕様】

レンズ構成:10群14枚 画角:102° 最小絞り:32  
最短撮影距離:35cm 最短撮影倍率:0.15  
最短撮影範囲:319×239mm 35mmカメラ換算値:17mm  
フィルター径:マウント部にシートフィルター フード:内蔵  
寸法:136×90mm 質量:886g  
マミヤZD装着時:32mm  
マミヤZD装着時(35mmカメラ換算値):20mm

希望小売価格 640,000円



## マミヤセコール AF28mmF4.5D Aspherical

マミヤセコール AF28mmF4.5D Asphericalは画角102度、35mm換算で17mm相当。

6×4.5cm判のレンズとしてはフィッシュアイレンズを除けば最も広い画角を持った超広角レンズです。非球面レンズの採用により、無限遠から最短距離35cmまで安定した高コントラストで高画質の画像が得られます。

被写界深度の深さを利用した風景や建築写真撮影、超広角レンズのパスベクティブを利用した独特の表現効果を発揮します。AF/MFの切り替えは距離リングの前後操作で行う事ができます。

#### 【主な仕様】

レンズ構成:10群11枚 画角:50°~26° 最小絞り:32  
最短撮影距離:100cm 最短撮影倍率:0.09~0.16  
最短撮影範囲:75mm時545×409mm 150mm時293×220mm  
35mmカメラ換算値:47~93mm フィルター径:77mm  
フード:バヨネット式花形フード 寸法:145×86mm  
質量:1,140g マミヤZD装着時:87~174mm  
マミヤZD装着時(35mmカメラ換算値):54~108mm

希望小売価格 360,000円



## 新製品ニュース

マミヤ・デジタル・イメージングは大判レンズの世界的ブランド「シュナイダー社」とメカニカルカメラの世界的ブランドALPAの日本国内の販売代理店になりました。

高性能レンズの代名詞として約90年間に渡り地位を確立してきた世界トップクラスの光学機器メーカー「シュナイダー」の大判レンズと高級メカニカルカメラALPAの各ボディ「ALPA 12 TC」、「ALPA 12 WA」、「ALPA 12 SWA」、「ALPA 12 XY」及び交換レンズ、フィルムホルダーを始めとしたアクセサリーを販売します。

**ALPA**  
OF SWITZERLAND



12XY



12TC



12WA



12SWA

**Schneider**  
KREUZNACH



## MCCインフォメーション

### 夕陽に染まる雪の八甲田撮影会 2007年2月8日(木)～10日(土)

今年の東北は雪が少ない。青森空港に降り立ち、バスで青森駅に向かう。例年ならすれ違う車の屋根に雪が積もっている筈なのだが、市街に至ってはまったく雪が見られない。駅前の雪合戦会場も八甲田から雪を運んだとか…。ただ空だけは、この季節特有のどんよりした曇り空。昼食をとっている最中に、ついには雨さえ降り出し撮影に向けて一抹の不安がよぎる。昼食を終えて雨の中をバスに乗り込み一路八甲田へ。さすがに山道に入るにしたがい雨が徐々に雪に変わり道も真っ白になっている。

3日間の雪中撮影用にスノーシューをレンタルし最初の撮影地は地獄沼。池の廻りにこんもりと雪が積もり厳寒の雪の中に噴出す湯気に温かみを感じる。雪の土手で撮影した後は城ヶ倉大橋からの俯瞰撮影。雪と溪、木々が織り成すモノクローム、墨絵の世界を撮影する。

翌朝の早朝撮影は田代牧場へ。朝日が昇り、雫岳を紅色に染める。淡い朝日に広がる雪原に、風に煽られた粉雪が生き物のようにたたくりながら遠ざかって行く。良い暁から日の出の刻を撮影することできた。朝食後はいよいよメインの八甲田ロープウェイに乗る。

ロープウェイ山頂駅に着くと、なんと真っ白な世界、視界が利かない。仕方なく、それぞれ近景の樹氷を撮影して過ごす。中途半端な気持ちのまま昼食時間になり、天候回復を祈りながら食事をしていて窓から遠くに何故か海が見える。驚いて外に出ると青空が見えている。劇的な変化に喜びながら、広大な樹氷のフィールドに出で一心に撮影する。

最後はロープウェイの最終時間を少しだけ遅らせてもらい

夕陽に備えたが、さすがにこの時期の八甲田は甘くはなく、夕方に近づくにつれて再び真っ白な世界に戻ってしまった。あきらめて皆カメラをしまい山頂駅に集まった瞬間、一瞬だけ雲が薄くなり白が淡い紅色に変わった。慌ててカメラを出す、間に合った人は何人いただろうか？人知れず繰り広げられる自然のドラマを垣間見るチャンスは少ない。

今回は本当に運が良かったのだろう。通いつめている撮影指導の林先生でさえ、クリアな夕陽は数回しか体験していないのだから。翌日も朝から八甲田ロープウェイ、十和田湖の飛沫氷、奥入瀬渓谷を撮影し3日間を無事に楽しく終えた。



## 第13回・14回 MCCフォトコンテスト入賞作品展

2007年7月19日(木)～8月1日(水)  
10:00～18:00 最終日10:00～15:00

第13回・14回MCCフォトコンテストの入賞作品展を開催いたします。  
13回の入賞作品14点、14回の入賞作品16点の合計30点を全紙パネル  
で展示いたします。クラブ会員の皆様のご来場をお待ちしております。

### 四谷フォトギャラリー

〒160-0008 東京都新宿区三栄町7番地  
株シグマラボ四谷営業所 B1F 03-5269-2877

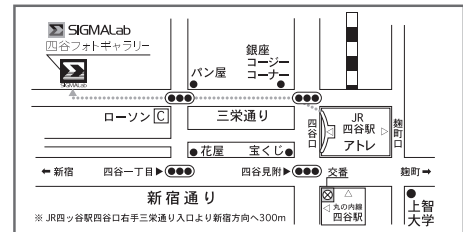
## プロラボで現像、プリントしてみませんか？

●プロラボサービスがマミヤカメラクラブ会員特別価格で  
ご利用いただけます。

四谷フォトギャラリーのあるシグマラボ四谷店では、MCC会員、準会員の皆様に特別価格でプロラボサービス  
をご利用いただけることになりました。会員証を店頭にてご提示いただければ現像、プリント等が約20%引き  
の会員価格になり大変お得です。是非この機会にご利用下さい。(四谷店のみ)

株式会社シグマラボ四谷営業所／四谷フォトギャラリー

〒160-0008 東京都新宿区三栄町7番地 TEL03-5269-2877 FAX03-5269-2830 <http://www.sigmalab.co.jp>



## コダックフォトクラブ&日本ハッセルブラッドクラブ& ペンタックスファミリー&マミヤカメラクラブ合同 「ポートレート撮影会」を 東京・名古屋・大阪で開催しました。

4クラブ合同のポートレート撮影会が5月19日に大阪・天保  
山公園、6月2日に東京・国営昭和記念公園、6月9日に名古屋・  
名古屋城で実施されました。それぞれのクラブ会員と一般  
の写真愛好家の皆様、総勢663名が参加され各地の写真界  
の第一線で活躍されているプロ写真家の指導のもと一流モ  
デルによるポートレート撮影を楽しみました。またこの撮  
影会の作品を対象としたフォトコンテストも予定しており、  
発表は「マミヤギャラリー  
Vol.14」にて行ないます。



大阪会場 5月19日



東京会場 6月2日



名古屋会場 6月9日

## MCC ORIGINAL GEAR MCC 3D雲台

●なめらかな操作の小型3WAY雲台

中判カメラから大判カメラまで対応できる頑丈な小型雲台です。  
可動部の摺り合わせ面の平面性を極限まで高めており、  
適度な滑らかさとトルクが得られます。

- 大型カメラの重量に耐える頑丈さ
- スムーズな操作性・レバー式でかさばらない
- プレーキレバーのストップ位置はワンタッチ変更可能

素材／アルミ削りだし 高さ／120mm  
重さ／800g カメラ取り付け部／60×80mm  
三脚取り付け部／φ80mm



会員特別価格

94,500円(税抜価格90,000円)

オプション:ネームプレート名入れ 3,000円

※ご注文はクラブ事務局までお電話かFAXにてお申し込みください。  
ハンドメイド、オリジナル商品の為、受注生産。納期は1ヶ月程かかります。  
(この商品につきましては、クラブポイント交換対象外とさせていただきます)

## マミヤカメラクラブ撮影会予定

松代・松之山・大蔵寺高原～棚田とブナ林～撮影会  
2007年11月2日(金)～3日(土)

場所:新潟県松代・松之山の棚田と大蔵寺高原周辺のブナ林  
参加費:会員 34,000円 準会員 35,000円

講師:原 弘男先生

宿泊:まつだい芝峠温泉 雲海 定員:30名

## マミヤカメラクラブ 年間予定の変更について

マミヤカメラクラブ会報誌の発行月とMCC  
フォトコンテストの募集月を変更いたします。

年2回のマミヤカメラクラブ会報誌「マミヤ  
ギャラリー」の発行月を1月と7月に、MCC  
フォトコンテストの募集締切月を8月末と2月  
末日にそれぞれ変更いたします。

# MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、  
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。  
写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。  
マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。  
講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。  
撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。  
宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金：1,050円(消費税込み)  
会費：4,200円(消費税込み) 2年会費  
手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

## クラブ員特典

- クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布  
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 修理代金の割引  
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- マミヤカメラクラブメール  
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売  
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



## 入会のお申し込み・お問合せは マミヤカメラクラブ事務局

〒110-0005 東京都台東区上野 2-14-22 明治安田生命上野公園ビル 4F  
TEL.03-5688-8024



## マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。  
また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。  
また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8040 営業時間 9:00～18:00  
大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00～18:00  
土、日、祝日は休業

## マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

本社 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F  
商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。  
東京サービスセンター 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F  
TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8039  
大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11 西谷ビル  
TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

### マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター 〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目  
TEL 011-221-8507 FAX 011-232-3344  
東北地区 M C プロテック 〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202  
TEL 022-297-3846 FAX 022-256-1808  
東海地区 山田テクニカルサービス 〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門39  
TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。

《マミヤホームページ》 <http://www.mamiya.co.jp>

この会報誌は最高級の美術印刷技術 HBP-700 を使用しています。